

3月は卒業や異動などで飛躍のときです。どなたも、これが自分の使命と思える事柄を見つけて、一度きりの人生を充実させてほしいと願っています。若いときに栄養学や健康について学び、実践した人は、健康に留意した食べ方がわかっていきますから、たとえ途中で脱線しても、生涯、自分の食生活や健康状態をコントロールできるようにになります。病気になる前としても、ふだんの栄養状態が病気の回復を左右するのです。これはお金には代えられない宝物です。

この宝物を子どもの時期に身につくようにと実現したのが、4年前に始まった栄養教諭制度です。

学校給食の現場にいる栄養士に、子どもだけでなく教師や保護者への食育コーディネーターとしての役割を担ってもらうものです。文部科学省と厚生労働省の2つの省をまたぐ画期的なとり組みですが、現実には自治体や学校間で採用に温度差があり、栄養教諭のように全校配置には至りません。栄養教諭自身にも食育の成果が求められています。まずおいしい給食を提供して周囲の理解を得、その存在意義を理解してもらうことです。

日々の暮らしに

香川芳子

女子栄養大学学長

若いときに
身につけた食生活が
生涯の宝物になります

